

「英語のリーディング・スキルに関するアンケート調査」にみる

理工系学生のための基本語彙リスト

佐藤容子（東京農工大学大学院言語文化科学部門教授）

ロバート・ジェイ・ヴィーンストラ（東京農工大学英語非常勤講師）

A survey of key word lists for science and engineering students

Yoko Sato, Professor of English, TUAT

Robert Jay Veenstra, Part-time Instructor of English, TUAT

Abstract:

As a part of the Tokyo University of Agriculture and Technology (TUAT) Good Practice project for 2006, the research team conducted a survey, including questions on English vocabulary that the teachers consider to be essential key words for their students in the field of their studies. The lists of the collected key words were compared with West's General Service List (GSL), Coxhead's Academic Word List (AWL) and the JACET 8000.

The results indicates that while language teachers put most of the focus upon words from the AWL, more than 40% of the words that Agriculture and Technology teachers recommended were off-list words. That being said, the Agriculture teachers also targeted vocabulary consistent with the first 1000 high frequency words; on the other hand the second largest group of words for Technology teachers was from the AWL. An analysis of the teachers' preferred words when compared with the JACET 8000 showed a large overlap of words from the JACET 1000-word level to the 5000-word level. However, approximately 20% of the recommended words from the Agriculture and Technology teachers were found at or above the JACET 8000-word level.

These findings imply that in terms of vocabulary the TUAT English courses should be designed to help the TUAT undergraduate students to effectively bridge the gap between their knowledge of general English and the expected knowledge of more specialized terms in their field of study. The findings will also help to construct a more informative vocabulary list for science and technology students.

[**Key Words/ キーワード:** English/英語, Second Language/第二言語, Vocabulary Learning/語彙学習, Word List/語彙リスト, Reading Skills/リーディング・スキル]

1. はじめに

本論文は、東京農工大学の平成 17 年度教育改善支援プログラム（学内 GP）に採択された「コンピュータ適応型英語プレイスメント・テスト試作のためのパイロット・スタディ」の一環として実施した「英語のリーディング・スキルに関するアンケート調査」の結果のなかで、特に「語彙」に関する質問項目を分析し、考察するものである。

英語ワーキング・グループ（佐藤容子、クリストファー・ウィーバー、リック・ロマンコ、ロバー

ト・ジェイ・ヴィーンストラ & 宇田川洋子）による同プロジェクトの目的は、リテラシー科目である英語のリーディング授業に習熟度別クラス編成を導入する可能性を探ることであった。プロジェクトは二つの部分から成っており、一つは「英語のリーディング・スキルに関するアンケート調査」、もう一つは、「リーディングのプレイスメント・テストの試作」であった。

受講者を習熟度別にレベル分けするためのプレイスメント・テストの試作に先立ち、本学の教

員と学生を対象として「英語のリーディング・スキルに関するアンケート調査」を実施した。教員を対象とした調査のねらいは、外国語教員のみならず、学部の専門教育に携わる教員の立場から見た場合に、英語必修科目の履修を終えた段階で学生がどのようなレベルに到達していることを教員は期待しているか、という点を明らかにするための意識調査であった。具体的には、専門教育を視野にいれた場合、どのようなタイプ及びレベルの英文テキストを読めるようになることが重要と思うかという観点から、実際の英語教科書等に用いられている9種類の短い英文サンプルを5つの側面（語彙、文法、内容、専攻分野に役立つ情報、英文ジャンル）から評価してもらった。学生を対象とした調査においては、学生たちが自身の現在の英語力と考えているレベルを念頭において、教員と同じ9種類の英文サンプルについて、やはり上記の5つの側面から回答してもらい、各々の期待度をファセット分析により示した。これに関する詳しい分析結果は、『大学教育ジャーナル』第3号において報告した（佐藤容子，クリストファー・ウィーバー，リック・ロマンコ，ロバート・ジェイ・ヴィーストラ & 宇田川洋子「英語のリーディング・スキルに関するアンケート調査にみる教員と学生の英文サンプル評価」、『大学教育ジャーナル』第3号，13-26，2007）。

さて速く正確に読み取るリーディング・スキルの向上のためには、十分な「語彙」の習得が欠かせないことから、教員を対象とした「英語のリーディング・スキルに関するアンケート調査」においては、英文サンプルの評価のあとで、それぞれの教員が自分の学科の学生たちのために重要と考える英語の語彙を列挙してもらった。本論文においては、このような方法で収集された語彙リストがどのような特徴を持っているかを分析し、理工系学生のためのより包括的な基本語彙リストを作成していくための基礎としたい。

2. 英語の語彙に関するアンケート質問項目

平成17年12月から平成18年1月にかけて実施された「英語のリーディング・スキルに関するアンケート調査」における教員のインフォーマント数は、下記のとおりである。同アンケートは日本語版と英語版の二種類を作成して、東京農工大学の全教員（助手以上）と英語の非常勤講師（日本人非常勤講師，ネイティブ・スピーカー非常勤講師）ならびに管理部門の方々に回答の協力を依頼した。回収率は約30%であり、その内訳は表1のとおりである。

表1 Informants for the Survey/
アンケート調査のインフォーマント

Agriculture Teachers	45
Technology Teachers	55
Full-time Language Teachers	6
Part-time Language Teachers	10
Other Teachers	14
TOTAL	130

このアンケート調査表のなかで、インフォーマントに英語の語彙を挙げてもらう項目は次のようなものであった。

セクション4 本学の学生のためのアカデミック・ワード・リストを初めて作成するための質問です

◆ あなたの学科（専攻）の学生にとって重要な語彙であるとあなたが考える英語のキーワードを、10語書いてください。品詞は問いません。

この質問項目により、学生の受ける専門教育を念頭に置きながら、重要と思われる英語のキーワードとそれに対応する日本語を列挙してもらった。その結果を集計して得られた語彙リストが、英語教育の分野でこれまで作成されてきた語彙リストと比較した場合に、どのような特徴が見られたかということについて、以下に示していくことにする。それに先立ち、第二言語（外国語）としての英語教育における主要な語彙リストについて簡単に述べておきたい。

3. 英語教育における主要な語彙リスト

第一言語（母語）としてではなく、第二言語（外国語）として英語を学習する場合は、母語話者と同じだけの語彙サイズの習得を学習目標とするのは遠大に過ぎるため、まずは短期的にはできるだけの絞った語彙学習が効率的であり実際的でもある。そのため英語教育における語彙研究は、テキスト中に高い頻度で出現する語彙に注目してきた。

冠詞や前置詞などの機能語を含む高頻度語の古典的リストとしては、マイケル・ウェスト（Michael West 1953）の General Service List (GSL) があり、2000語を含んでいる。このうち、最初の1000語はアカデミックなテキストの約77%をカバーし、次の1000語は約5%をカバーするため、

基本語彙 2000 語の習得は極めて重要であることが指摘されている (I.S.P. Nation 2001: 16)

さらに GSL の基本語彙に加えて、英語でアカデミックな分野の勉学をめざす第二言語学習者のために重要な語彙としてアヴィリル・コックスヘッド(Averil Coxhead)が作成した Academic Word List (AWL)がある。これは、人文科学、法学、商学、自然科学の分野にわたるあわせて 350 万語以上のアカデミック・テキストによるコーパス(言語資料)を基に、高頻度語に注目して作成されたリストである。570 語の小さなリストであるにもかかわらず、10%という高いカバー率を示し、自然科学分野のサブコーパスについても、9.1%の高カバー率であったことが報告されている (A. Coxhead 2000: 223)。

ちなみにテキスト中のどれぐらいの語彙が既知であるかということとリーディング・スキルとの関わりに関して、ネイションは、ローファーの先行研究 (B.Laufer1989)を踏まえつつ、テキストの意味の通った理解に焦点をあてた場合には、語彙のカバー率は 95%を有することが必要で、流暢に読む力を発展させていくためには、98-100%のカバー率を有するべきとしている (I. S. P. Nation 2001: 148)。言い換えるならば、テキストを読み進めていくときに未知語は 20 語に 1 語の割合を超えないことが望まれるわけである。

日本人の英語学習者のためにつくられた語彙リストとしては、大学英語教育学会が作成した 8000 語の基本語彙リスト (JACET8000)がある。レベル 1 からレベル 8 までが設定され、1000 語単位で 1 レベルずつ上がって行く構成となっている。これは、1 億語からなる British National Corpus (BNC)を基準としながら、日本の英語教育の実態を反映させて構築されたリストである。サブコーパスには、中学・高校の検定教科書、センター試験の英語問題、TOEIC®や TOEFL®の予想問題などのデータのほか、科学雑誌の論文、百科事典の大項目、さらに映画の SCRIPT 等の話し言葉のデータも含まれている。

4. アンケート調査にみる「TUAT 語彙リスト」

さて、実施した「英語のリーディング・スキルに関するアンケート調査」において収集されたキーワードを「TUAT 語彙リスト」と名づけ、先に述べた主要な語彙リストとの比較を試みたい。アンケート回答者に、品詞を問わず 10 項目のキーワードを挙げてもらったところ、回答には、1 項目に対して 2 語以上からなる用語が記してある場合も含まれていた。以下の比較分析においては、2 語以上からなる用語については、今回は便宜的

に、単語のまとまりではなく、そこに含まれる各々の単語を個別に数えることとする。

先に述べた GSL 及び AWL とある英文テキストを照らし合わせるには、当初 A. ヒートリー (A. Heatley) とネイションによって開発され、トム・コブ (Tom Cobb) が作成し管理するウェブ版プログラム *The Compleat Lexical Tutor 4.0* が有用である (<http://www.lextutor.ca/>)。このプログラムを用いて、アンケート調査によって集約された語彙リスト中に、基本語 2000 語 (GSL)、アカデミック語彙 (AWL) そしてリスト外の語彙が含まれていた割合を算出し、あわせて各々のグループに属する語彙を同定した。

この分析に加えて、JACET8000 語彙リストとの参照も行った。ある単語が JACET8000 のリスト中のどのレベルの語彙に含まれているかについては、下記のウェブ版 JACET8000 分析プログラムを用いた。

<http://jacetvoc.kl.dendai.ac.jp/~shimizu/j8web/j8web.cgi>

4.1 「TUAT 語彙リスト」の分析—高頻度語の特徴

「英語のリーディング・スキルに関するアンケート調査」によって得られた単語は、「延べ数」(Tokens)にして 1279 語、「タイプ数(異なる語数)」(Types)にすると、765 であった。延べ数のうち、5 回以上生じた高頻度語を表 2 に示す。

表 2 にみるように、最も頻度が高かったのは“environment”の 19 回であった。5 回以上生じた語は 34 語であり、これらの語だけで全体の 20%以上を占めている。最高頻度数の語“environment”を筆頭に、この語彙リストのなかには、“resource”、“sustainable”など環境問題に関連する語が多く含まれているのが大きな特徴といえる。また二番目に高頻度の語が“reaction”となっており、物質に関連する語も多く見られ、農学と工学を中心とする本学の教育分野がよく反映されていると思われる。

表 2 High Frequency TUAT Words/
TUAT 語彙リストの高頻度語

Rank	Freq	Coverage Individual	Coverage Cumulative	Word
1	19	1.49%	1.49%	environment
2	14	1.10%	2.59%	reaction
3	12	0.94%	3.53%	chemistry

4	12	0.94%	4.47%	engineering
5	11	0.86%	5.33%	science
6	10	0.78%	6.11%	analysis
7	9	0.70%	6.81%	energy
8	9	0.70%	7.51%	resource
9	8	0.63%	8.14%	sustainable
10	7	0.55%	8.69%	agriculture
11	7	0.55%	9.24%	biology
12	7	0.55%	9.79%	communication
13	7	0.55%	10.34%	development
14	7	0.55%	10.89%	information
15	7	0.55%	11.44%	pollution
16	7	0.55%	11.99%	property
17	7	0.55%	12.54%	system
18	6	0.47%	13.01%	and
19	6	0.47%	13.48%	conservation
20	6	0.47%	13.95%	environmental
21	6	0.47%	14.42%	mass
22	6	0.47%	14.89%	material
23	6	0.47%	15.36%	of
24	6	0.47%	15.83%	research
25	6	0.47%	16.30%	sustainability
26	6	0.47%	16.77%	synthesis
27	6	0.47%	17.24%	technology
28	6	0.47%	17.71%	the
29	5	0.39%	18.10%	chemical
30	5	0.39%	18.49%	education
31	5	0.39%	18.88%	food
32	5	0.39%	19.27%	semiconductor
33	5	0.39%	19.66%	soil
34	5	0.39%	20.05%	stress

6回生起した語のなかには“and”, “of”, “the”が含まれているが、それはひとつには先に述べたようにキーワードとして、なかには2語以上からなる用語を挙げた回答者も多かったことと関係している。この点は、古典的コーパスとして名高いブラウンコーパス（1961年にアメリカで発行された多種の印刷物をもとに、ブラウン大学で構築されたコーパス）において、“the”, “and”, “of”がトップ3の高頻度語であることを考えると興味深い結果の一致といえよう。

試みに、「TUAT 語彙リスト」を1279語からなるテキストとみなし、前述のコブのウェブ版プログラム *The Compleat Lexical Tutor 4.0* を使って、ブラウンコーパス（2000語のテキスト500種類の計約100万語）における語の生起率と比べ、極めて高い頻度を示した語を上位から10語挙げると表3のようになった。

表3 Potential Key TUAT Words/
TUAT 語彙リスト中の潜在的キーワード

	Proportion compared to Brown Corpus	Word
1	1173.00	physiology
2	1042.33	spectroscopy
3	1042.33	deposition
4	912.17	pollution
5	782.00	evaporation
6	782.00	volcanic
7	782.00	transcription
8	782.00	substitution
9	782.00	metabolism
10	782.00	thermodynamics

表3からは、たとえば、第一番目の語“physiology”（生理学）は、ブラウンコーパス中のこの語の「自然な」生起率と比べた場合、1173.0倍もの高率で1279語のテキスト上に生起したと読みとることができる。また“spectroscopy”（分光器），“deposition”（析出）はともに、1042.33倍の高率で生起している。比較する一方のテキストが小さいため一概にはいえないものの、こうした分析によって抽出された語は、本学の教育研究に対応した言語環境の特徴の一端を表している可能性がある。

4.2 「TUAT 語彙リスト」の分析— GSL 及び AWL との比較

次に、「TUAT 語彙リスト」は、GSL 及び AWL の語彙リストとどれくらい対応しているかについて調べた。アンケート調査で得られたキーワードをインフォーマントの所属別に分け、下記の4つのレベルに従って分類した。結果は、表4-7のとおりである。

- 1) 基本語 1-1000 語 (K1 Words)
- 2) 基本語 1001-2000 語 (K2 Words)
- 3) AWL に含まれているアカデミックな語彙 (AWL Words)
- 4) リスト外の語 (Off-List Words)

コブのウェブ版プログラムにおいては、英文テキストの語は、「延べ語数」(Tokens) 及び「タイプ数」(Types) のほか、「ワード・ファミリー」(Families) , すなわち、派生や屈折などの観点から同一語のグループにまとめられると考えられる語のグループ数についても、その割合が示され

るのである。さらに基本語 1-1000 語については、そのなかで冠詞、代名詞、接続詞、前置詞などの「機能語」(Function)が占める割合、及び名詞、形容詞、動詞などの「内容語」(Content)が占める割合も示される。

表 4 Key Words-from TUAT Technology Teachers/ 農学部教員によるキーワード

	Families	Types	Tokens	Percent
K1 Words (1-1000):	64	68	105	24.82%
Function:	(12)	(2.84%)
Content:	(93)	(21.99%)
K2 Words (1001-2000):	50	31	53	12.53%
1k+2k	(37.35%)
AWL Words (academic):	49	57	91	21.51%
Off-List Words:	2	138	174	41.13%
	143+?	294	423	100%

表 5 Key Words-from TUAT Technology Teachers/ 工学部教員によるキーワード

	Families	Types	Tokens	Percent
K1 Words (1-1000):	57	63	91	20.00%
Function:	(4)	(0.88%)
Content:	(87)	(19.12%)
K2 Words (1001-2000):	25	27	44	9.67%
1k+2k	(29.67%)
AWL Words (academic):	74	80	125	27.47%
Off-List Words:	2	144	195	42.86%
	156+?	314	455	100%

表 6 Key Words from Other TUAT Teachers/ 外国語教員によるキーワード

	Families	Types	Tokens	Percent
K1 Words (1-1000):	38	38	44	29.73%
Function:	(15)	(10.14%)
Content:	(29)	(19.59%)
K2 Words (1001-2000):	10	10	13	8.78%
1k+2k	(38.51%)
AWL Words (academic):	49	57	70	47.30%
Off-List Words:	2	20	21	14.19%
	97+?	125	148	100%

表 7 Key Words from Other TUAT Teachers/ その他の部局の教員によるキーワード

	Families	Types	Tokens	Percent
K1 Words (1-1000):	35	35	46	18.18%
Function:	(3)	(1.19%)
Content:	(43)	(17.00%)
K2 Words (1001-2000):	20	20	24	9.49%
1k+2k	(27.67%)
AWL Words (academic):	55	61	80	31.62%
Off-List Words:	2	86	103	40.71%
	110+?	202	253	100%

表 4 及び表 5 をみると、農学部教員が回答したキーワードの集合においても、工学部教員が回答

したキーワードの集合においても、リスト外の語 (GSL にも AWL にも含まれていない) が 40% 以上を占めていることがわかる。一方、表 6 に示されているように、外国語教員が回答したキーワードの集合にはリスト外の語は 14.19% しか含まれておらず、AWL の語に最も焦点があてられていて 47.30% に及んでいるのと対照的である。もっとも農学部教員が回答したキーワードにおいては、リスト外の語に次いで、基本語 1-1000 語の占める割合が比較的多くなっている点が注目される。一方、工学部教員が回答したキーワードにおいては、リスト外の語に次いで多くの割合を占めたのは AWL の語彙であった。このような回答の傾向は、工学部教員が、アンケート調査中の英文サンプル評価においても、科学論文の Abstract の英文を読みこなせるようになることに対する期待度が、他の教員グループと比べてときに、一番高かったこととも対応関係にあると推測される (佐藤, ウィーバー, ロマンコ, ヴィーンストラ & 宇田川 2007: 20)。表 7 におけるその他の部局の教員としては、BASE(生物システム応用科学府)や MOT(技術経営研究科)の大学院の教員が多いため、GSL の語彙の占める割合は、工学部教員の回答の場合よりもさらに低くなっている。表 4-7 が示している各教員グループごとの傾向をまとめると、表 8 のようになる。

表 8 Key Words from Different Groups of Teachers/ 教員グループ別によるキーワード

	K1 Words (1-1000)	K2 Words (1001-2000)	K1+K2	AWL Words	Off-List Words
Agriculture Teachers	24.84%	12.35%	37.35%	21.51%	41.13%
Technology Teachers	20.00	9.67	29.67	27.47	42.86
Language Teachers	29.73	8.78	38.51	47.30	14.19
Other Teachers	18.18	9.49	27.67	31.62	40.71

4.3 「TUAT 語彙リスト」の分析—JACET8000 との比較

JACET8000 分析プログラムでは「タイプ」(Types)ではなく「指標」(Indexes)を用い、何をもって 1 語と数えるかがコブのプログラムと少し異なるため、解析結果の語数に関して数値が多少ずれているところがある。とはいえ、「TUAT 語彙リスト」を JACET8000 の語彙リストと対照させた場合においても、GSL 及び AWL との比較から浮かび上がってきた特長に呼応する傾向が読み取れる。表 9-13 を参照されたい。

表 9 と表 10 を比べてみると、農学部教員も工学部教員もレベル 8 を超える語を挙げている割合が 20% 以上を占めている一方で、農学部教員につ

いては、レベル1の語の占める割合が、約30%と高くなっているのが目立っている。外国語教員が挙げるレベル1の語の割合はさらに高く約38%、レベル2の語も20%近くを占めている。

表13は、インフォーマント全員による語彙リストが、JACET8000の8レベルにいかに対応していたかを示している。表9-13を俯瞰すると、レベル8を超える語を別とすれば、レベル1からレベル4ないし5に対応する語、すなわち4000-5000語レベルの語彙が多数を占めているのがみとれる。

表9 JACET8000 vs. Key Words from TUAT Agriculture Teachers/ JACET8000と農学部教員によるキーワード

	level 1	level 2	level 3	level 4	level 5	level 6	level 7	level 8	over 8	cont. forms	non-words	proper nouns	total
indexes	70	41	24	34	14	9	10	8	74	0	2	5	291
%	24.055	14.089	8.247	11.684	4.811	3.093	3.436	2.749	25.43	0	0.687	1.718	100
tokens	131	67	32	45	17	9	15	11	88	0	2	5	422
%	31.043	15.877	7.383	10.664	4.028	2.133	3.555	2.607	20.853	0	0.474	1.185	100

it = 68.957 %

表10 JACET8000 vs. Key Words from TUAT Technology Teachers/ JACET8000と工学部教員によるキーワード

	level 1	level 2	level 3	level 4	level 5	level 6	level 7	level 8	over 8	cont. forms	non-words	proper nouns	total
indexes	54	38	39	36	19	14	17	7	85	0	1	0	310
%	17.419	12.258	12.581	11.613	6.129	4.316	5.484	2.258	27.419	0	0.323	0	100
tokens	91	62	61	53	32	22	22	9	103	0	1	0	456
%	19.956	13.596	13.377	11.623	7.018	4.825	4.825	1.974	22.588	0	0.219	0	100

it = 67.982 %

表11 JACET8000 vs. Key Words from TUAT Language Teachers/ JACET8000と外国語教員によるキーワード

	level 1	level 2	level 3	level 4	level 5	level 6	level 7	level 8	over 8	cont. forms	non-words	proper nouns	total
indexes	43	27	9	19	8	2	4	2	10	0	0	1	125
%	34.4	21.6	7.2	15.2	6.4	1.6	3.2	1.6	8	0	0	0.8	100
tokens	56	29	11	22	10	2	4	2	11	0	0	1	148
%	37.838	19.595	7.432	14.865	6.757	1.351	2.703	1.351	7.432	0	0	0.676	100

it = 84.459 %

表12 JACET8000 vs. Key Words from Other TUAT Teachers/ JACET8000とその他の部局の教員によるキーワード

	level 1	level 2	level 3	level 4	level 5	level 6	level 7	level 8	over 8	cont. forms	non-words	proper nouns	total
indexes	35	35	21	33	13	13	9	4	36	0	1	1	201
%	17.413	17.413	10.448	16.418	6.468	6.468	4.478	1.99	17.91	0	0.498	0.498	100
tokens	47	49	27	40	18	14	11	4	41	0	1	1	253
%	18.577	19.368	10.672	15.81	7.115	5.534	4.348	1.581	16.206	0	0.395	0.395	100

it = 79.447 %

表13 JACET8000 vs. Key Words by All TUAT teachers/ JACET8000と全学教員によるキーワード

	level 1	level 2	level 3	level 4	level 5	level 6	level 7	level 8	over 8	cont. forms	non-words	proper nouns	total
indexes	138	108	74	97	46	33	35	15	193	0	4	7	750
%	18.4	14.4	9.867	12.933	6.133	4.4	4.667	2	25.733	0	0.533	0.933	100
tokens	325	206	131	160	78	47	52	26	243	0	4	7	1279
%	25.41	16.106	10.242	12.51	6.099	3.675	4.066	2.033	18.999	0	0.313	0.547	100

it = 58.64 %

5. 考察と展望

「TUAT 語彙リスト」の分析において、インフォーマントの挙げた多くの「リスト外」の語は、専門分野の内容により密接に関わる語であったと考えられる。このようなキーワード群は単なる語彙として記憶するよりは、その専門分野の学習の理解を深めていく課程で習得していくことが望ましいのはいうまでもない。しかしながら、これらのキーワードと共に生起する可能性の高い、より一般的な語彙を抽出して、英語学習において集中的に学ぶことが可能であれば、英語のリーディング・スキルやライティング・スキルの向上に繋がると予想される。

また JACET8000 の作成チームからは、4000-5000 語レベルを超えた語彙を知っていることと、「英語力」とは必ずしも関連が強くなく、逆に語彙学習の効率を上げるには、4000-5000 語レベルの語を集中的に学習することが重要という指摘がなされている(村田ほか 2006: 2-3)。その意味では今回のアンケート調査で得られた語彙リストは、大きなサイズではないものの、本学の学生にとっての4000-5000語レベルのキーワードをよく網羅している面もあったと考えられる。このような語彙リストを基礎資料として組み入れながら、理工系の学生にとってより情報量が多く効果的な英語基本語彙リストの作成を目指したいと考える。GSL, AWLの語彙と「リスト外」の語彙の間隙をより効果的に埋め、繋ぐような語彙リストの構築が可能になれば、理工系の学生の英語語彙学習指導に資するものとなるであろう。

謝辞

本論文で取り上げた「英語リーディング・スキルに関するアンケート調査」にご協力くださったすべての方々に謝意を表す。

参考文献

- 佐藤容子, クリストファー・ウィーバー, リック・ロマンコ, ロバート・ジェイ・ヴィーンストラ & 宇田川洋子 (2007) 「英語のリーディング・スキルに関するアンケート調査にみる教員と学生の英文サンプル評価」『大学教育ジャーナル』第3号, 13-26.
- 大学英語教育学会 (JACET) 基本語改訂委員会 (編) (2003) 『大学英語教育学会基本語リスト JACET List of 8000 Basic Words』大学英語教育学会.
- 大学英語教育学会 (JACET) 基本語改訂委員会 (編) (2004) 『大学英語教育学会基本語リスト活用事例集: 教育と研究への応用 How to

Make the Best of JACET 8000: for Educational and Research Application』 大学英語教育学会.
村田年, 望月正道, 相澤一美 (編) (2006) 『「大学英語教育学会基本語リスト」に基づく英単語 Checkmate』, 桐原書店.
Coxhead, Averil (2000) “A New Academic Word List”, *TESOL Quarterly* 34 (2), 213-238.
Nation, I.S.P. (2001) *Learning Vocabulary in Another Language*, Cambridge University Press.